

T568B成端手順

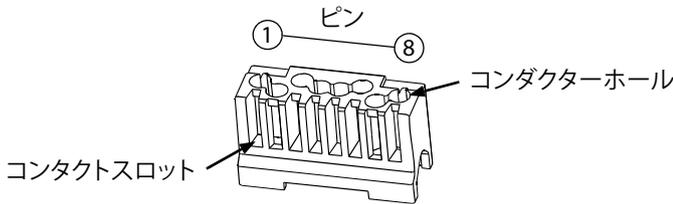
ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568B	茶	茶/白	緑	青/白	青	緑/白	橙	橙/白

■成端仕様

- 外被覆外径 5.72~6.35φmm
- 心線径 AWG 24の単線および撚り線
- 心線絶縁径 最大1.02φmm
- T568B結線は茶色対の対角側が橙色対
- ドレーン線付きもしくは編組仕様のFTP、ScTP、SFTP および STP/PIMF ケーブル使用

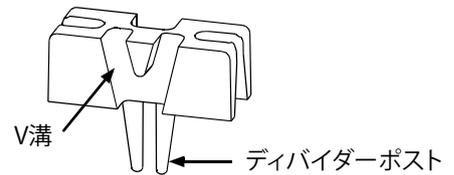
ロードバー

挿入時の向きに注意して下さい



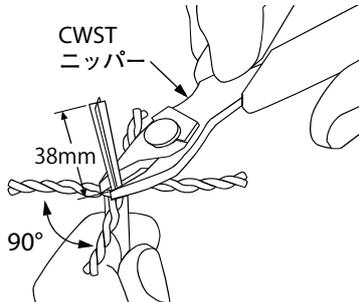
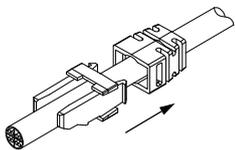
ディバイダー

V溝とコンタクト番号の位置を確認して下さい



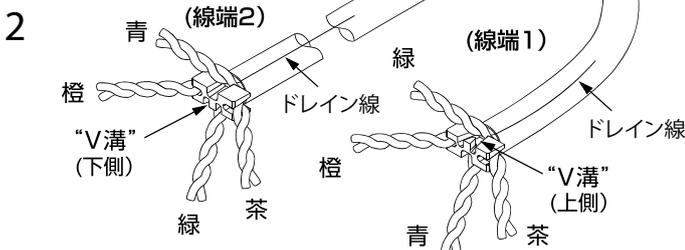
1

ブーツとカラーを最初に挿入 (線端1&2)

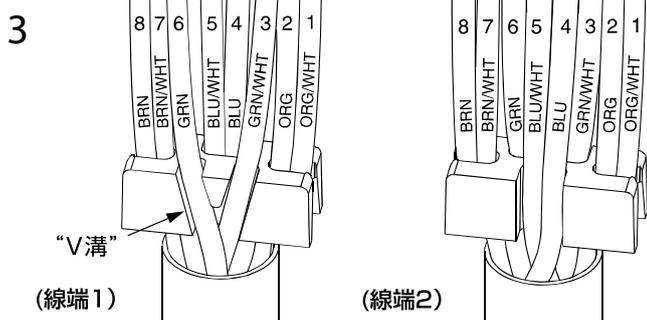


◆ブーツとカラーを最初に挿入します。

- ◆ケーブル端から38mmほど外被覆を剥きます。
- ◆遮蔽用ホイルを剥きます。編組仕様の場合は編組線でドレーン線を作ります。外被覆に沿うようにドレーン線を折り曲げます。
- ◆各対を十字方向のように開きます。(放射状)
- ◆中央に介在物(十字介在)がある場合には、導線を曲げた根本から4mmほどの所でカットします。



- ◆茶色対の対角側が橙色対となるように対の位置確認、または合わせを行い、再度各対を十字に開きます。
- ◆ディバイダーのV溝と緑色対が合うようにV溝の向きと位置を確認します。(十字介在があればディバイダーをその中心部分に差し込みます)



- ◆各対をディバイダーの所まで撚りを戻します。
- ◆茶色対をディバイダーの茶色側溝に茶白を先に茶色を後からハメ込みます。
- ◆橙色対は対角側の溝に橙色を先に後から橙白をハメ込みます。(7番、8番と2番、1番の溝にハメ込む)
- ◆青色対をディバイダー中央小さい方の溝に4番側が青色で5番側に青白となる所で色合わせします。
- ◆緑色対はもう片面のV溝となっている3番側が緑白で6番側が緑色となるように色合わせします。(4番、5番と3番、6番の溝に合わせる)

4

ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568B	茶	茶白	緑	青白	青	緑白	橙	橙白

25mm
(線端1)

- ◆ ディバイダーを押さえながら各対の撚りを戻して導線を真っ直ぐに伸ばします。
- ◆ 1番から8番ピンまで一列にしてディバイダーから25mmほど空けて導線を斜めにカットします。(ロードバーの挿入が容易になります)

5

(線端2)
平らな面
① ⑧
(線端1)
① ⑧
ピン番号

- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーを持ち、ロードバーの平らな面が表になっている事を確認してロードバーを挿入します。

6

7

(線端1)

- ◆ ディバイダーとの隙間ができないようにしっかりと挿入します。
- ◆ 1番と8番の導線を少し外側に曲げます。
- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーとロードバーを押さえながら、カラーの平らな面を表にしてディバイダーまで引き寄せてから、ロードバーの先端で余分な導線をカットします。

8

(線端2)
ドレイン線
カラーの突起
カラーのラッチ
① ⑧
ピン番号
① ⑧
ピン番号
CSPT使用時のブーツ位置
(線端1)
カラーのロックタブ

- ◆ ドレイン線が上になるように、ケーブルの向きを調整します。
- ◆ 図のようにカラーの向きを確認してハウジングに挿入します。
- ◆ ドレイン線がストレインカラーガイドに沿っていることを確認します。
- ☆ 挿入を補助するCSPT工具有ります。この工具を使用する時には、ブーツは装着しないでください。

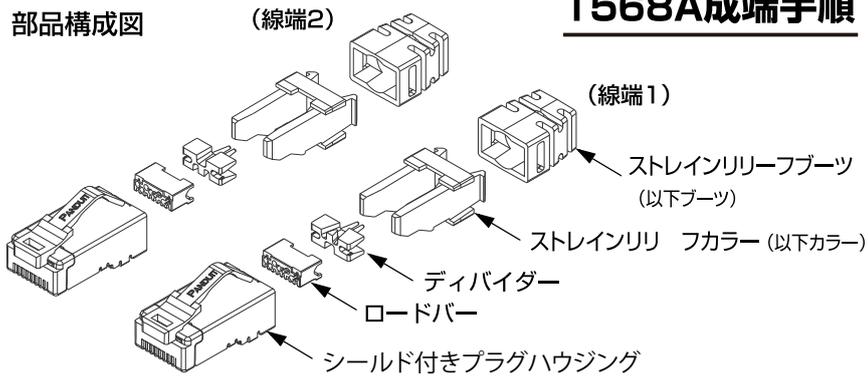
9

プラグハウジング

10 MPT5-8AS

- ◆ 外被覆がハウジング内に収まるように調整し、ラッチするまでカラーを挿入します。
- ◆ 圧接工具 MPT5-8AS を使用して一括圧接します。
- ◆ 余分なドレイン線はカラーラッチの間で切断もしくは押し込んで処理します。
- ◆ ブーツを装着して成端が完了します。

部品構成図



T568A成端手順

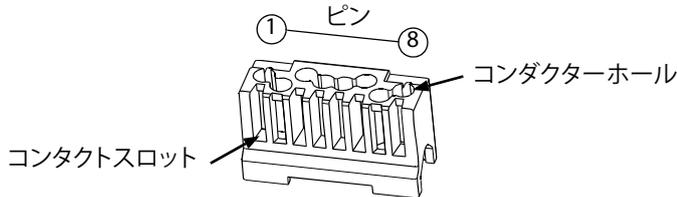
ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568A	茶	茶白	橙	青白	青	橙白	緑	緑白

■成端仕様

- 外被覆外径 5.72~6.35φmm
- 心線径 AWG 24の単線および撚り線
- 心線絶縁径 最大1.02φmm
- T568A結線は茶色対の対角側が緑色対
- ドレイン線付きもしくは編組仕様のFTP、ScTP、SFTP および STP/PIMF ケーブル使用

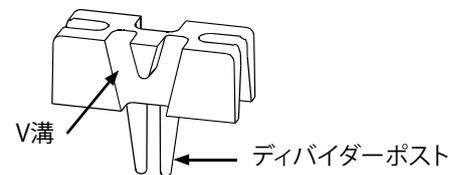
ロードバー

挿入時の向きに注意して下さい

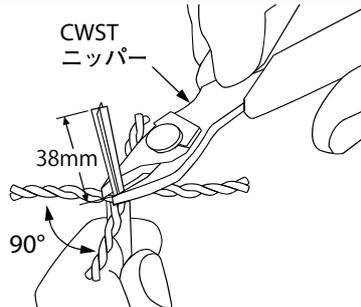
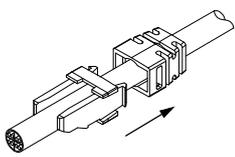


ディバイダー

V溝とコンタクト番号の位置を確認して下さい



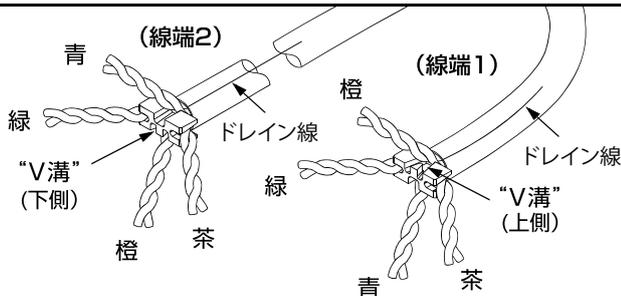
1 ブーツとカラーを最初に挿入 (線端1&2)



◆ ブーツとカラーを最初に挿入します。

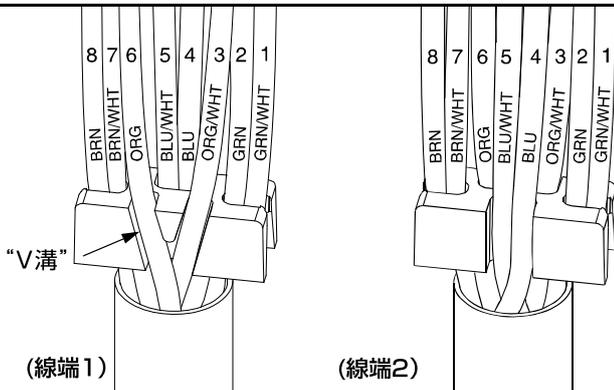
- ◆ ケーブル端から 38mm ほど外被覆をむきます。
- ◆ 遮蔽用ホイルを剥きます。編組仕様の場合は編組線でドレイン線を作ります。外被覆に沿うようにドレイン線を折り曲げます。
- ◆ 各対を十字方向のように開きます。(放射状)
- ◆ 中央に介在物 (十字介在) がある場合には、導線を曲げた根本から 4mm ほどの所でカットします。

2



- ◆ 茶色対の対角側が緑色対となるように対の位置確認、または合わせを行い、再度各対を十字に開きます。
- ◆ ディバイダーのV溝と橙色対が合うようにV溝の向きと位置を確認します。(十字介在があればディバイダーをその中心部分に差し込みます)

3



- ◆ 各対をディバイダーの所まで撚りを戻します。
- ◆ 茶色対をディバイダーの茶色側溝に茶白を先に茶色を後からハメ込みます。
- ◆ 緑色対は対角側の溝に緑色を先に後から緑白をハメ込みます。(7番、8番と2番、1番の溝にハメ込む)
- ◆ 青色対をディバイダー中央小さい方の溝に4番側が青色で5番側に青白となる所で色合わせします。
- ◆ 橙色対はもう片面のV溝となっている3番側が橙白で6番側が橙色となるように色合わせします。(4番、5番と3番、6番の溝に合わせる)

4

ピン番号	8	7	6	5	4	3	2	1
T568A	茶	茶白	橙	青白	青	橙白	緑	緑白

25mm

(線端1)

- ◆ ディバイダーを押さえながら各対の撚りを戻して導線を真っ直ぐに伸ばします。
- ◆ 1番から8番ピンまで一列にしてディバイダーから25mmほど空けて導線を斜めにカットします。(ロードバーの挿入が容易になります)

5

(線端2)

平らな面

(線端1)

① ⑧

① ⑧

ピン番号

- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーを持ち、ロードバーの平らな面が表になっている事を確認してロードバーを挿入します。

6

7

(線端1)

- ◆ ディバイダーとの隙間ができないようにしっかりと挿入します。
- ◆ 1番と8番の導線を少し外側に曲げます。
- ◆ 左側が茶色となるようにディバイダーとロードバーを押さえながら、カラーの平らな面を表にしてディバイダーまで引き寄せてから、ロードバーの先端で余分な導線をカットします。

8

(線端2)

ドレイン線

カラーの突起

カラーのラッチ

ストreinカラーガイド

CSPT使用時のブーツ位置

(線端1)

カラーのロックタブ

① ⑧

① ⑧

ピン番号

ピン番号

- ◆ ドレイン線が上になるように、ケーブルの向きを調整します。
- ◆ 図のようにカラーの向きを確認してハウジングに挿入します。
- ◆ ドレイン線がストreinカラーガイドに沿っていることを確認します。
- ☆ 挿入を補助するCSPT工具有ります。この工具を使用する時には、ブーツは装着しないでください。

9

プラグハウジング

10

MPT5-8AS

- ◆ 外被覆がハウジング内に収まるように調整し、ラッチするまでカラーを挿入します。
- ◆ 圧接工具 MPT5-8AS を使用して一括圧接します。
- ◆ 余分なドレイン線はカラーラッチの間で切断もしくは押し込んで処理します。
- ◆ ブーツを装着して成端が完了します。

技術的なお問い合わせ
パンドウイト カスタマーサービス

PANDUIT
<http://www.panduit.co.jp/>

E-mail : jpn-toiawase@panduit.com
FAX : 03-6863-6100
TEL : 03-6863-6060